OECD生徒の学習到達度調査（PISA2009）のポイント

【調査概要】

○義務教育修了段階の15歳児（高校1年生）を対象。
○知識や技能を、実生活の様々な場面で直面する課題にどの程度活用できるかを評価。
○読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシーの3分野について、2000年以降、3年ごとに調査を実施。
（2000 年調査では読解力、2003年調査では数学的リテラシー、2006年調査では科学的リテラシー、2009年調査では再び読解力を中心分野として重点的に調査。）
○2009年調査には、65か国・地域（OECD加盟34か国、非加盟31か国・地域）から約47万人の15歳児が参加。
○我が国では、全国の高等学校、中等教育学校後期課程、高等専門学校の1年生約117万人のうち、185校、約6000人が調査に参加。（平成21年6、7月に実施）

【結果概要】

我が国の学力の位置

○我が国の読解力、科学的リテラシーは、国際的に見て「上位グループ」にある。
数学的リテラシーは「OECD平均より高得点グループ」にある。

前回との比較

○読解力は、平均得点が前回より大幅に上昇。
数学的リテラシー、科学的リテラシーは、平均得点が前回より上昇。

質問紙調査

○読書活動について肯定的に回答した割合は、ほとんどの項目でOECD平均よりも多く、2000年調査よりも増加した。

【分野別の結果】

	読解力	数学的リテラシー	科学的リテラシー
国際的な位置付け 全参加国中 ※（）内は2006年調査の順位。	上位グループ 8位／65ヵ国・地域（15位／57） 順位の範囲　5～9位	OECD平均より高得点グループ 9位／65　（10位／57） 順位の範囲　8～12位	上位グループ 5位／65　（6位／57） 順位の範囲　4～6位
OECD加盟国中	5位／34ヵ国（12位／30） 順位の範囲　3～6位	4位／34　（6位／30） 順位の範囲　3～6位	2位／34　（3位／30） 順位の範囲　2～3位
平均得点の2006年調査との比較	2006年の平均得点より統計的に有意に上昇 （520点←498点）	2006年の平均得点より上昇 ※統計的な有意差なし （529点←523点）	2006年の平均得点より上昇 ※統計的な有意差なし （539点←531点）

ＰＩＳＡ２００９年調査の国際比較

	読　解　力	得点	数学的リテラシー	得点	科学的リテラシー	得点
1	上海	556	上海	600	上海	575
2	韓国	539	シンガポール	562	フィンランド	554
3	フィンランド	536	香港	555	香港	549
4	香港	533	韓国	546	シンガポール	542
5	シンガポール	526	台湾	543	**日本**	**539**
6	カナダ	524	フィンランド	541	韓国	538
7	ニュージーランド	521	リヒテンシュタイン	536	ニュージーランド	532
8	**日本**	**520**	スイス	534	カナダ	529
9	オーストラリア	515	**日本**	**529**	エストニア	528
10	オランダ	508	カナダ	527	オーストラリア	527
11	ベルギー	506	オランダ	526	オランダ	522
12	ノルウェー	503	マカオ	525	台湾	520
13	エストニア	501	ニュージーランド	519	ドイツ	520
14	スイス	501	ベルギー	515	リヒテンシュタイン	520
15	ポーランド	500	オーストラリア	514	スイス	517
16	アイスランド	500	ドイツ	513	イギリス	514
17	アメリカ	500	エストニア	512	スロベニア	512
18	リヒテンシュタイン	499	アイスランド	507	マカオ	511
19	スウェーデン	497	デンマーク	503	ポーランド	508
20	ドイツ	497	スロベニア	501	アイルランド	508
21	アイルランド	496	ノルウェー	498	ベルギー	507
22	フランス	496	フランス	497	ハンガリー	503
23	台湾	495	スロバキア	497	アメリカ	502
24	デンマーク	495	オーストリア	496	チェコ	500
25	イギリス	494	ポーランド	495	ノルウェー	500
26	ハンガリー	494	スウェーデン	494	デンマーク	499
27	ポルトガル	489	チェコ	493	フランス	498
28	マカオ	487	イギリス	492	アイスランド	496
29	イタリア	486	ハンガリー	490	スウェーデン	495
30	ラトビア	484	ルクセンブルグ	489	オーストリア	494
31	スロベニア	483	アメリカ	487	ラトビア	494
32	ギリシャ	483	アイルランド	487	ポルトガル	493
33	スペイン	481	ポルトガル	487	リトアニア	491
34	チェコ	478	スペイン	483	スロバキア	490
35	スロバキア	477	イタリア	483	イタリア	489
36	クロアチア	476	ラトビア	482	スペイン	488
37	イスラエル	474	リトアニア	477	クロアチア	486
38	ルクセンブルグ	472	ロシア	468	ルクセンブルグ	484
39	オーストリア	470	ギリシャ	466	ロシア	478
40	リトアニア	468	クロアチア	460	ギリシャ	470
41	トルコ	464	ドバイ	453	ドバイ	466
42	ドバイ	459	イスラエル	447	イスラエル	455
43	ロシア	459	トルコ	445	トルコ	454
44	チリ	449	セルビア	442	チリ	447
45	セルビア	442	アゼルバイジャン	431	セルビア	443
46	ブルガリア	429	ブルガリア	428	ブルガリア	439
47	ウルグアイ	426	ルーマニア	427	ルーマニア	428
48	メキシコ	425	ウルグアイ	427	ウルグアイ	427
49	ルーマニア	424	チリ	421	タイ	425
50	タイ	421	タイ	419	メキシコ	416
51	トリニダード・トバゴ	416	メキシコ	419	ヨルダン	415
52	コロンビア	413	トリニダード・トバゴ	414	トリニダード・トバゴ	410
53	ブラジル	412	カザフスタン	405	ブラジル	405
54	モンテネグロ	408	モンテネグロ	403	コロンビア	402
55	ヨルダン	405	アルゼンチン	388	モンテネグロ	401
56	チュニジア	404	ヨルダン	387	アルゼンチン	401
57	インドネシア	402	ブラジル	386	チュニジア	401
58	アルゼンチン	398	コロンビア	381	カザフスタン	400
59	カザフスタン	390	アルバニア	377	アルバニア	391
60	アルバニア	385	チュニジア	371	インドネシア	383
61	カタール	372	インドネシア	371	カタール	379
62	パナマ	371	カタール	368	パナマ	376
63	ペルー	370	ペルー	365	アゼルバイジャン	373
64	アゼルバイジャン	362	パナマ	360	ペルー	369
65	キルギス	314	キルギス	331	キルギス	330

（注1）網掛けは、非OECD加盟国を示す。

学力向上に関するこれまでの施策とPISA2009の結果

これまでの主な施策

○「学びのすすめ」公表（平成14(2002)年1月）
→ ①基礎・基本の確実な定着、②発展的な学習の推進、
③宿題を出すなど家庭学習の充実や、朝読書の推進　など

○学習指導要領(平成15(2003)年12月)等の一部改正
→ 子どもの実態に応じた、発展的内容の指導を充実
（「学習指導要領の基準性」を明確化、教科書に「発展的な学習内容」の記述）

○「読解力向上プログラム」策定(平成17(2005)年12月)
→ PISA型「読解力」の育成を目指し、読書活動の充実など、学校、国・教育委員会での取組を明示。

○「全国学力・学習状況調査」実施(平成19(2007)年4月～)
→ 調査結果等を踏まえた、学校、国・教育委員会での取組による検証改善サイクルの構築。

PISA2009の結果

○読解力を中心に我が国の生徒の学力は改善傾向にある。
（・各リテラシーとも、2006年調査と比べて、レベル2以下の生徒の割合が減少し、レベル4以上の生徒の割合が増加している。）

しかしながら、トップレベルの国々と比べると下位層が多い。

○読解力については、必要な情報を見つけ出し取り出すことは得意だが、それらの関係性を理解して解釈したり、自らの知識や経験と結び付けたりすることがやや苦手である。

（例）読解力の習熟度レベル別割合

	レベル1以下	レベル2	レベル3	レベル4以上
日本	13.6%	18.0%	28.0%	40.4%
韓国	5.8%	15.4%	33.0%	45.8%
フィンランド	8.1%	16.7%	30.1%	45.1%
香港	8.3%	16.1%	31.4%	44.3%

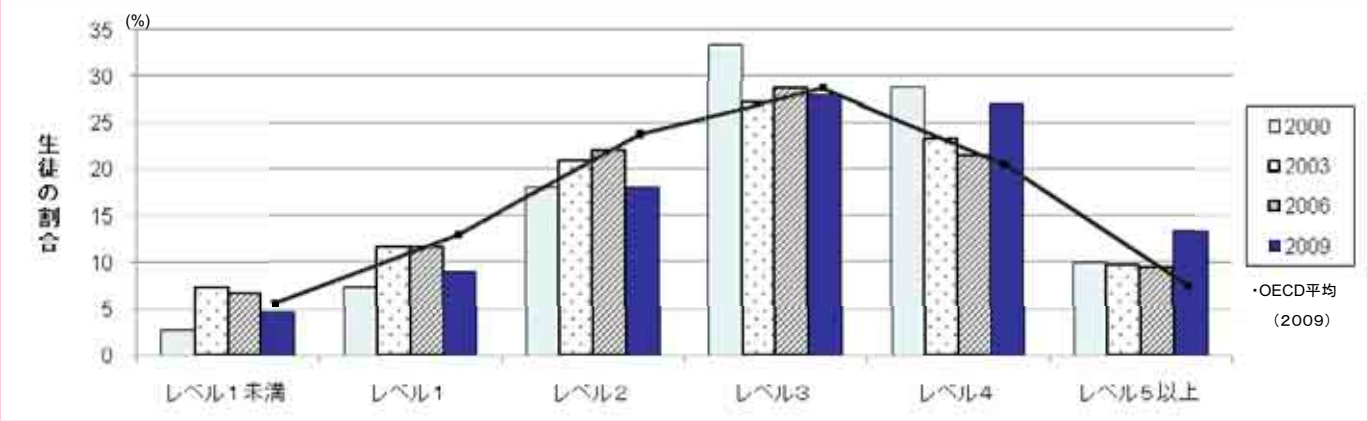
（「情報へのアクセス・取り出し」530点（平均正答率74%）、「統合・解釈」520点（平均正答率62%）、「熟考・評価」521点（平均正答率59%））

○数学的リテラシーについては、OECD平均は上回っているが、トップレベルの国々とは差がある（順位の幅　8～12位）。

○「趣味で読書をすることはない」生徒の割合は、2000年調査から減少（44.2% ←55.0% ）したものの、諸外国（OECD平均37.4%）と比べると依然として多い。

PISA　わが国の習熟度レベル別の生徒の割合（経年変化）

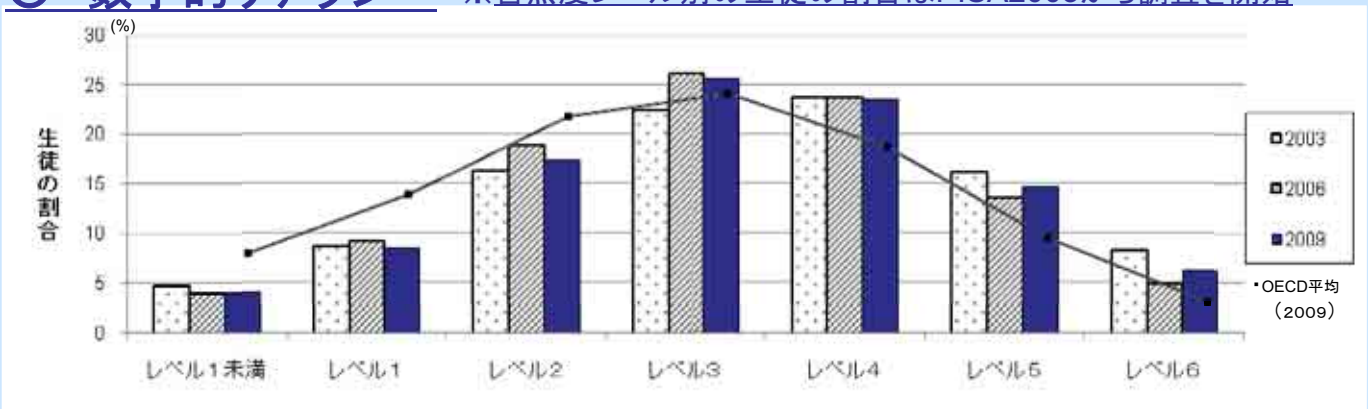
○　読解力



● **PISA2009では、PISA2006に比べて、レベル2以下の生徒の割合が減少し、レベル4以上の生徒の割合が増加。**

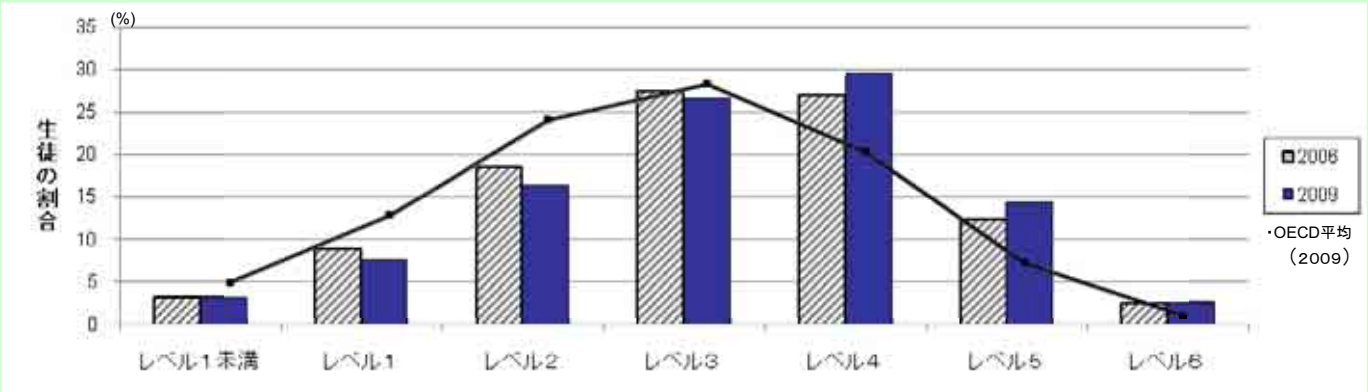
※比較のため、レベル1未満には2009年調査におけるレベル1bおよびレベル1b未満を、レベル5以上にはレベル5およびレベル6を含めている。

○　数学的リテラシー　※習熟度レベル別の生徒の割合はPISA2003から調査を開始



● **PISA2009では、PISA2006に比べて、レベル2の生徒の割合が減少し、レベル5以上の生徒の割合が増加。**

○　科学的リテラシー　※習熟度レベル別の生徒の割合はPISA2006から調査を開始



● **PISA2009では、PISA2006に比べて、レベル1、2の生徒の割合が減少し、レベル4及び5の生徒の割合が増加。**

❑ 1. 読解力

1．1 ■ 携帯電話の安全性に関する問題（PISA2009 年調査問題）

携帯電話の安全性

携帯電話は危険ですか？

キーポイント

携帯電話の健康に対する影響について、相反する結論を述べた報告書が、1990 年代後半に発表されました。

キーポイント

携帯電話の影響を調査するため、これまで多額の科学研究費が投入されてきました。

	はい	いいえ
1.	携帯電話が発する電磁波は、体の組織を発熱させ、悪影響を与えます。	電磁波は、体を発熱させて悪影響を与えるほど強くありません。
2.	携帯電話がつくりだす磁場（じば）は、体の細胞の活動に影響を与えます。	磁場（じば）はとても弱いので、体の細胞に影響を与えることはまず考えられません。
3.	携帯電話で長電話をすると、だるさや、頭痛や、集中力の低下を感じることがあります。	そのような影響は実験では見られません。現代の生活スタイルの中に、何かほかの原因があるのでしょう。
4.	携帯電話を使っていると、電話を当てる耳の側に、がんが 2.5 倍もできやすくなります。	研究者によれば、がんができやすくなることが、携帯電話を使うことと関係があるかどうかは明らかではないそうです。
5.	国際がん研究機関は、小児がんと高圧線に関係があることを発見しました。高圧線は、携帯電話と同じように、電磁波を発しています。	高圧線の発する電磁波は違う種類のものであり、携帯電話が発する電磁波より、かなり強いエネルギーを持っています。
6.	携帯電話が発するものと同じ高周波の電波によって、線虫の遺伝子の発現に変化が生じました。	線虫は人間ではありません。だから、人間の脳細胞が同じように反応するとはかぎりません。

携帯電話を使うときは…

キーポイント

携帯電話の利用者数の多さを考えると、健康への影響がごく小さいことであっても、大きな社会問題になる可能性があります。

キーポイント

2000 年のスチュワート報告（英国の報告書）によれば、携帯電話による健康被害は確認されていないとのことですが、さらに調査が行われるまでは、特に若者の携帯電話の使用には注意を要するとしていました。 2004 年に発表された報告書でも、同様の指摘がなされています。

こうしましょう	やめましょう
通話は短くすませましょう。	電波状態の悪いときは、携帯電話を使わないようにしましょう。基地局と通信するために強いパワーが必要になるので、携帯電話が出す電磁波も強くなります。
待ち受け時は、携帯電話を体から離（はな）して持ち歩きましょう。	ＳＡＲ値[1]が高い携帯電話を買うのはやめましょう。より強い電磁波を発します。
連続通話時間の長い携帯電話を買いましょう。効率がよく、電磁波がそれほど強くないからです。	ほかの機関が検査したものでなければ、電磁波を防ぐ器具を買うのはやめましょう。

[1] ＳＡＲ（比吸収率）値とは、携帯電話を使っているときに、体に吸収される電磁波の量をあらわします。

前の２ページの「携帯電話の安全性」は、あるウェブサイトから引用したものです。「携帯電話の安全性」を読んで、以下の問に答えてください。

携帯電話の安全性に関する問１

「**キーポイント**」は、どのような目的で書かれたものですか。

A　携帯電話を使うことの危険を説明するため
B　携帯電話の安全性についての議論が続いていることを示すため
C　携帯電話を使う人が守るべき注意点を説明するため
D　携帯電話による明らかな健康被害はないことを示すため

携帯電話の安全性に関する問２

「あることが、明らかにほかのことの原因になっているかどうかを証明するのは難しい」という意見があります。

上の意見は、「**携帯電話は危険ですか？**」という表の項目４に書かれている「**はい**」の主張、あるいは「**いいえ**」の主張とどのような関係がありますか。

A　「はい」の主張を支持しているが、その正しさを証明していない
B　「はい」の主張の正しさを証明している
C　「いいえ」の主張を支持しているが、その正しさを証明していない
D　「いいえ」の主張は正しくないことを証明している

携帯電話の安全性に関する問３

表の項目３の「**いいえ**」の主張を見てください。この主張のいう「何かほかの原因」として、どのようなものが考えられますか。原因として考えられることを一つあげ、そのように考えた理由も書いてください。

……

携帯電話の安全性に関する問４

「**携帯電話を使うときは…**」という表を見てください。

この表は、次のうち、どの考えにもとづいてつくられたものですか。

A　携帯電話の使用に危険性はない
B　携帯電話の使用に危険性があることが証明されている
C　携帯電話の使用に危険性があるかどうかはわからないが、注意したほうがよい
D　携帯電話の使用に危険性があるかどうかはわからないので、はっきりとわかるまでは使わないほうがよい
E　「**こうしましょう**」は危険性について真剣に考えている人に対する指示で、「**やめましょう**」は、それ以外の人すべてに対する指示である

1．3 ■ 在宅勤務に関する問題（PISA2009 年調査問題）

在宅勤務

未来のやりかた

　想像してみてください。コンピュータや電話などの情報ハイウェイを使って、あなたの仕事をすべて片付けられる「在宅勤務（テレコミューティング）[1]」という働き方があったらどんなに素晴らしいことか。もう、ぎゅうぎゅう詰めのバスや電車でもみくちゃにされながら、何時間もかけて通勤する必要はありません。あなたの好きな場所で仕事ができます。そしていつでも都合のよいときに仕事ができるようになるでしょう。新しい仕事のチャンスがどれだけできるか！

モリー

待ち受ける災難

　通勤時間を短くして、それに費やされるエネルギーを節約するというのは、たしかによいことです。 ですが、それは、公共交通機関をもっと便利にしたり、職場の近くに住むことができるようにしたりしてなしとげられるべきことです。だれもが在宅勤務する生活というのは野心的な考えではありますが、そうなったら、人々はますます自分のことだけしか考えなくなるでしょう。自分が社会の一員であるという感覚がますます失われてしまっても、本当にいいのでしょうか？

リチャード

[1]「在宅勤務（テレコミューティング）」とは、1970年代初めにジャック・ニルズがつくった言葉で、会社から離れた場所（たとえば家など）でコンピュータを使って仕事をし、電話回線を通じてデータや文書を会社に送るという勤務形態を表した言葉です。

上の「在宅勤務」をよく読んで、以下の問に答えてください。

在宅勤務に関する問１

「未来のやりかた」と「待ち受ける災難」という二つの文章はどのような関係ですか。

A　違った根拠を用いて、同じ結論に至っている
B　同じ文体で書かれているが、まったく違った話題について論じている
C　同じ考えを述べているが、違った結論に至っている
D　同じ話題について、対立した考えを述べている

在宅勤務に関する問２

　在宅勤務するのが難しい種類の仕事を、一つあげてください。また、そのように考えた理由も説明してください。

……

……

……

在宅勤務に関する問３

　モリーとリチャードの**両者**が同じ考えなのは、次のうち、どの点についてですか。

A　人々が働きたいだけの時間、働けるようにすべきである
B　人々にとって、通勤に時間がかかりすぎるのはよくない
C　在宅勤務は、だれにも向いているわけではない
D　人間関係をつくることは仕事のもっとも重要な部分である

小学校　国語Ｂ　2　表をもとに話し合う〈家の中のそうじや整とん〉

2

川口さんの学級では、家族の一員としてできることを考えるために、家庭での過ごし方について調べました。次は、川口さんのグループが集めた資料をもとにした話し合いの様子の一部です。よく読んで、あとの問いに答えましょう。

【話し合いの様子の一部】

【資料】家の中のそうじや整とんをする小学校６年生の割合

	いつもしている	ときどきしている	あまりしていない	まったくしていない	無回答など
平成16年	15%	52%	24%	9%	0%
平成17年	14%	48%	29%	8%	1%

（国立オリンピック記念青少年総合センター「青少年の自然体験活動等に関する実態調査」による。）

司会　ここからは、川口さんたちが集めた【資料】をもとにして、「家の中のそうじや整とん」について話し合います。【資料】を見て分かったことや考えたことを発表してください。

川口　平成十六年を見ると、「いつもしている」人が少ないと思います。家の中のそうじや整とんはむずかしいことではないと思います。家族の一員としての自覚をもって、積極的に取り組むべきではないでしょうか。

松山　確かに、平成十六年の「いつもしている」は十五％しかいません。でも、「ときどきしている」を合わせると、六十七％もいます。むしろ、よく取り組んでいるほうだと思います。

司会　今、二人は、平成十六年の割合から考えた意見を出してくれましたが、平成十七年の割合からも考えてみてください。

村田　わたしは、平成十七年の「あまりしていない」と「まったくしていない」に注目しました。この二つを合わせると、三十七％にもなります。しかも、平成十六年よりも増えているので、もっと取り組んだほうがいいと思います。

あなたの発表

ア

（話し合いが続く）

一　話し合いで出された意見を次の□の中にあるＩつに分けます。「川口・松山・村田」の三人は、それぞれＡ・Ｂのどちらの意見になりますか。□の中に、それぞれＡかＢのどちらかふさわしいほうを選んで書きましょう。

Ａ　最近の小学校六年生は、家の中のそうじや整とんによく取り組んでいるという意見

Ｂ　最近の小学校六年生は、家の中のそうじや整とんにあまり取り組んでいないという意見

※解答は、解答用紙に書きましょう。

川口 □　松山 □　村田 □

二　あなたは、ア のところで、前のページの□にあるＡの意見の立場から発表することにしました。あなたならどのような内容を発表しますか。次の条件に合わせて書きましょう。

【条件】
- ○　平成十七年の割合（％）を取り上げること
- ○　六十字以上八十字以内にまとめて、発表するように書くこと

（メモ）本番用紙は下書き用として、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

80字　60字

出題の趣旨

互いの立場や意図を明確にして話し合うことができるかどうかをみる。

分析概要

○　設問一は，出された意見を整理して，話し手の立場や意図をとらえるものである。正答率は，75.6％である。

○　設問二の正答率は，25.9％である。自分の立場や意図を明確にして発表することに課題がある。

Ｂ２設問一

趣旨

話し手の立場や意図をとらえて聞くことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第５学年及び第６学年〕　Ａ　話すこと・聞くこと

イ　話し手の意図を考えながら話の内容を聞くこと。

言語活動例

目的意識をもって友達の考えを聞くこと。

解答類型と反応率

問題番号		解　答　類　型		反応率(%)	正答
2	一	1	川口にＢ，松山にＡ，村田にＢを解答しているもの	75.6	◎
		2	川口にＢ，松山にＡ，村田にＢ以外を解答しているもの	4.6	
		3	川口にＢ，松山にＡ以外，村田にＢを解答しているもの	0.9	
		4	川口にＢ以外，松山にＡ，村田にＢを解答しているもの	6.1	
		5	川口にＢ，松山にＡ以外，村田にＢ以外を解答しているもの	1.5	
		6	川口にＢ以外，松山にＡ，村田にＢ以外を解答しているもの	0.3	
		7	川口にＢ以外，松山にＡ以外，村田にＢを解答しているもの	3.2	
		8	川口にＡ，松山にＢ，村田にＡを解答しているもの	2.6	
		9	上記以外の解答	2.1	
		0	無解答	3.0	

分析結果と課題

○　本設問は，出された意見を整理して，話し手の立場や意図をとらえ，選択するものである。正答率は，75.6％である。

○　誤答には，川口や村田の意見をＢ（あまり取り組んでいない）の立場ではなく，Ａ（よく取り組んでいる）の立場でとらえているものがある。話し手の意図を考えながら話の内容をとらえることができない児童がいることが分かる。

学習指導に当たって

○　互いの立場や意図を明確にし，共通点や相違点を考えながら，計画的に話し合う能力や態度を育てることが大切である。そのためには，話し合うテーマや議題について，理由や根拠を挙げながら自分の考えを話す指導が重要である。また，他者の考えを聞くときは，意見と根拠とを関係付けながら聞き，話し手の意図をつかむことが大切である。

Ｂ２設問二

趣旨

自分の立場や意図を明確にして話し合うことができるかどうかをみる。

■学習指導要領における領域・内容

〔第５学年及び第６学年〕　Ａ　話すこと・聞くこと

ウ　自分の立場や意図をはっきりさせながら，計画的に話し合うこと。

言語活動例

調べた事やまとめた事を話し合うこと。

解答類型と反応率

問題番号		解　答　類　型		反応率(%)	正答
2	二	（正答の条件） 次の条件を満たして解答している。 ①　最近の小学校六年生は，家の中のそうじや整とんによく取り組んでいると考える立場で書いている。 ②　平成十七年の割合（%）を取り上げている。 ③　60字以上80字以内で書いている。 （正答例） ・　平成十七年の「ときどきしている」は四十八%もいて，約半分です。「いつもしている」の十四%も合わせると，六十二%もあります。だから，よく取り組んでいると思います。(80字) ・　平成十七年を見ると，「まったくしていない」の八%と「無回答など」の一%以外の九十一%の人が取り組んでいることになります。だから，よく取り組んでいると思います。(79字) ・「いつもしている」と「ときどきしている」を合わせると，平成十六年は六十七%，平成十七年は六十二%もいて，毎年六割以上もいるので，よく取り組んでいると思います。(79字)			
		1	条件①，②，③のいずれも満たしているもの	25.9	◎
		2	条件①，②はいずれも満たしているが，条件③は満たしていないもの	0.9	
		3	条件①，③はいずれも満たしているが，条件②は満たしていないもの	17.8	
		4	条件②，③はいずれも満たしているが，条件①は満たしていないもの	17.1	
		5	条件①は満たしているが，条件②，③はいずれも満たしていないもの	1.7	
		6	条件②は満たしているが，条件①，③はいずれも満たしていないもの	1.0	
		9	上記以外の解答	24.0	
		0	無解答	11.6	

分析結果と課題

○　本設問は，話合いの流れを踏まえ，自分の立場や意図を明確にして発表するものである。意見の立場が分かれている状況を踏まえ，Ａの意見の立場で平成17年の割合を取り上げて発表する内容を書く必要がある。正答率は，25.9%である。立場を明確にし，数値を根拠にしながら自分の考えを述べることに課題がある。

小学校　国語Ｂ　3　「比べて読む〈二人の感想文〉」

3

中川さんの学級では、夏休みに読んだ本の中で心に残ったものを感想文に書き、図書新聞にのせることにしました。先生が、感想文の書き方の勉強になるように二人の感想文をしょうかいしました。同じ本について書いた二人の感想文を読んで、あとの問いに答えましょう。

先生は、この二人の感想文はどちらも良い書き方だとみんなにしょうかいしました。二人に共通する良い書き方とは、どのようなことですか。二つ書きましょう。

＜高橋さんが書いた感想文＞

わたしは，「相手のきげんをとったり，合わせたりするのは，本当の友達とはいえない。」という主人公あゆみの言葉をうまく受け入れられません。この本を読んで，人と人とがつながることのむずかしさを改めて考えました。

あゆみは，親友とうまくいかなくなったとき，今までとはちがう見方をしました。少しずつはなれていく関係になやみながらも，新しく友達との関係をつくることができました。いつまでも考えこまず，気持ちを切りかえるようにしたのです。あゆみは自分にとって本当の友達とは何かということの答えを見つけたのです。

わたしも，あゆみと同じような体験をしたことがあるのですが，うまくいきませんでした。広く人とかかわり，新しく友達を見つけていくことは大事です。だからといって，すぐに気持ちを切りかえるのはかんたんではありません。これからも，人と人とのつながりについて，考えていきたいと思います。

＜青木さんが書いた感想文＞

主人公あゆみの印象的な言葉。「いつもそばにいていっしょに行動することだけが友達じゃない。ときにはきょりを置き，友達を見守ることが大切だ。」わたしは，この本を読んで，はげまされ，勇気をもらいました。

あゆみは，親友とささいなことでけんかをします。少しずつ二人の心ははなれてしまい，落ちこんでいきます。そんなとき，全く気が合わないと決めつけていた別の友達が，「気にしすぎだよ。そのうち，仲良くなれるよ。」と声をかけてきました。話すことが少なかった友達が，声をかけてくれたことで，あゆみは元気づけられ，前向きな気持ちになれたのでした。

わたしは，この本と出会ってから，いろいろな人と広くかかわることができるようになりました。少しのけんかは気にせずに，できるだけ多くの友達をつくろうと思います。この本に出会うことができて，本当によかったです。

出題の趣旨

二つの文章を比べて読み、共通する書き方の良さや工夫を評価し、自分の考えとしてまとめることができるかどうかをみる。

■学習指導要領の内容・領域

C　読むこと（第５・６学年）

オ　必要な情報を得るために、効果的な読み方を工夫すること。

分析概要

○正答率は、一つ目が56.2%、二つ目が55.1%である。無解答率は、一つ目が13.1%、二つ目が17.4%である。読書感想文に必要な要素を押さえ、二人に共通する書き方の良いところを的確に把握し、評価することに課題がある。

解答類型と反応率

問題番号			解　答　類　型	反応率(%)	正答
3			（正答の条件） 次の条件などを満たして、二人に共通する書き方のよいところを書いている。 ①自分の生活体験や思いなどを結び付けた感想や意見、決意が明確であること ②本の引用や要約をしていること ③段落構成（三段落）や言葉の使い方（現在形、過去形）を工夫していること		
			（正答例） ・自分の体験をもとにした感想や意見、決意が明確であること。 ・主人公の言葉を使ったり、物語のあらすじをまとめたりしていること。 ・第一段落には心に残った主人公の言葉、第二段落には話のあらすじ、第三段落には自分の考えを中心にまとめるなど、三段落構成で書いていること。		
	(1) 一つ目	1	条件①、②、③などの複数を満たすか、いずれかを満たして解答しているもの	56.2	◎
		2	条件①、②、③などを満たさないで解答しているもの	30.3	
		9	上記以外の解答	0.5	
		0	無解答	13.1	
	(2) 二つ目		（二つ目が正答になる条件） 一つ目と同じ条件を取り上げてもよいが、全く同じような内容ではないこととする。同じような内容と判断するものは、類型２とする。		
		1	条件①、②、③などの複数を満たすか、いずれかを満たして解答しているもの	55.1	◎
		2	条件①、②、③などを満たさないで解答しているもの	27.1	
		9	上記以外の解答	0.4	
		0	無解答	17.4	

分析結果と課題

○本問は、児童が書いた2つの文章を比べて読み、書き方の良さや工夫を評価するものである。正答は、①「感想や意見、決意が明確であること」、②「引用や要約をしていること」、③「段落構成や言葉の使い方を工夫していること」などを満たして解答しているものである。正答率は、一つ目が56.2%、二つ目が55.1%である。

○誤答には、「しっかり書けている」のように抽象的に評価したり、２つの感想文に対する自分の感想を記述したりするなど、求められた条件に応じていない解答がある。また、無解答率が13.1%、17.4%であることから、読書感想文に必要な要素を押さえ、二人に共通する書き方の良いところを的確に把握し、評価することに課題があることが分かる。

学習指導に当たって

○複数の文章や資料を取り上げ、観点を設定して比べて読む言語活動を充実することが大切である。観点に沿って大事なことを取り出し、気付いたことや考えたことを簡潔にまとめるなどの指導が必要である。